

2026年7月31日現在

ファンドの概況

基準価額(円)※	12,697
純資産総額(億円)	26.8
設定日	2007年5月18日
信託期間	無期限
決算日	原則3月15日および9月15日 (休業日の場合は翌営業日)

※基準価額は信託報酬控除後です。

ファンドの内訳

内訳	比率
JPMorgan Funds - アセアン・エクイティ・ファンド(1クラス)	98.11%
CAマネープールファンド(適格機関投資家専用)	0.18%
現金等 ※	1.72%
合計	100.00%

※ 現金等には未払諸費用等を含みます。

分配金実績(1万口当たり、税引前)

設定来累計		2,700円	
決算日	分配金	決算日	分配金
2023年9月15日	300円	2025年3月17日	300円
2024年3月15日	300円	2025年9月16日	500円
2024年9月17日	500円	2026年3月16日	500円

- ・直近6期分の分配金実績です。
- ・分配金は過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。
- ・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

設定来の基準価額の推移



- ・基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬については、後記の「ファンドの費用」をご覧ください。
- ・上記は過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

騰落率

期間	ファンド	参考指数
1ヵ月	3.96%	4.88%
3ヵ月	8.02%	7.41%
6ヵ月	8.93%	8.04%
1年	22.62%	22.75%
3年	47.18%	53.60%
設定来	62.47%	197.07%

- ・騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。ファンドの騰落率であり、実際の投資家利回りとは異なります。
- ・参考指数はMSCI AC アセアン 10/40 インデックス(税引後配当込み、円換算ベース)です。参考指数は、ファンドの基準価額算定となる期間に対応しております。但し、設定日から2021年11月30日までの参考指数は、MSCI AC アセアン・インデックス(円換算ベース)でした。左記グラフおよび騰落率はMSCI AC アセアン・インデックス(円換算ベース)と連続させて指数化しております。
- ・同指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。
- ・上記は過去の実績であり、将来を示唆または保証するものではありません。

《ご参考》為替レート月間騰落率

通貨	2026/6/30 (円)	2026/7/31 (円)	騰落率
シンガポールドル	125.53	125.23	-0.24%
マレーシアリンギット	40.03	39.33	-1.73%
タイバーツ	4.88	4.80	-1.64%
インドネシアルピア	0.91	0.89	-2.20%
フィリピンペソ	2.65	2.61	-1.67%
ベトナムドン	0.62	0.61	-1.01%
米ドル	162.39	160.72	-1.03%

- ・対顧客直物電信売買相場の仲値
- ・インドネシアルピアおよびベトナムドンは百単位

2026年7月31日現在

投資先ファンド(JPMorgan Funds - アセアン・エクイティ・ファンド(Iクラス))の組入状況 (純資産総額比)

資産別組入比率

資産	比率
株式	98.73%
株価連動債	0.00%
現金等 ※	1.27%
合計	100.00%

※現金等には未払諸費用等を含みます。

国別組入比率

国	比率
シンガポール	54.82%
タイ	14.89%
マレーシア	14.70%
インドネシア	6.93%
フィリピン	3.47%
ベトナム	1.33%
その他	2.59%
現金等 ※	1.27%
合計	100.00%

通貨別組入比率

通貨	比率
シンガポールドル	47.38%
タイバーツ	14.89%
マレーシアリンギット	14.70%
米ドル	10.02%
インドネシアルピア	6.93%
フィリピンペソ	3.47%
ベトナムドン	1.33%
その他	1.27%
合計	100.00%

組入株式上位10銘柄

銘柄	国	比率
1 DBSグループ・ホールディングス	シンガポール	9.85%
2 オーバーシー・チャイニーズ銀行	シンガポール	9.67%
3 シー	シンガポール	6.12%
4 シンガポール・テレコム	シンガポール	5.45%
5 ユナイテッド・オーバーシーズ銀行	シンガポール	4.73%
6 バンク・セントラル・アジア	インドネシア	4.48%
7 デルタ電子	タイ	3.89%
8 マラヤン・バンキング	マレーシア	3.65%
9 シンガポール取引所	シンガポール	3.47%
10 インターナショナル・コンテナ・ターミナル・サービス	フィリピン	3.47%
組入全銘柄数 55	上位10銘柄合計	54.79%

組入上位5業種

業種	比率
金融	45.72%
資本財・サービス	19.96%
コミュニケーション・サービス	8.51%
一般消費財・サービス	6.73%
情報技術	4.53%

市場動向と今後の見通し

(JPモルガン・アセット・マネジメント(シンガポール)リミテッド)

7月のアセアン市場は全般的に上昇しました。インドネシアやフィリピンなど、年初から出遅れていた市場が反発したほか、テクノロジーから金融への急激なローテーションが、特にシンガポール、タイ、インドネシアで顕著でみられ、市場の追い風となりました。ベトナムは地政学的リスクによる原油高やベトナム最大のジュエリー製造販売会社の不祥事などが足かせとなり下落しました。業種別では、中東情勢をめぐる不透明感を背景に原油価格の変動が続いたことからエネルギーが恩恵を受けた一方、公益事業や観光関連は出遅れました。

JPMorgan Funds - アセアン・エクイティ・ファンドのパフォーマンスは、前月末比で上昇しました。主に公益事業はプラスに寄与しましたが、情報技術がマイナスに寄与しました。個別銘柄では、タイのクルン・タイ銀行、インドネシアのバンク・セントラル・アジアなどの上昇やDBS、オーバーシー・チャイニーズ銀行などシンガポールの大手銀行の上昇もパフォーマンスをけん引しました。一方で、シンガポールの半導体テストソリューション・プロバイダーのエム・ホールディングスやタイの電子製品の製造・販売、および関連する研究・開発を行うデルタ・エレクトロニクス・タイランド、ベトナムで食品および飲料の製造、取引、流通、養豚や食肉加工などを手掛けるマサン・グループなどの下落は足かせとなりました。当月、ポートフォリオではインドネシアなどへの投資比率が拡大した一方でタイ、ベトナムなどへの投資比率が縮小しました。業種別では金融などは拡大しましたが情報技術や公益事業などへの投資比率は縮小しました。

アセアン地域では、金融政策の方向性の違い、地政学的リスク、外需の不透明感を背景に、引き続き強弱入り交じるとみています。中東発のエネルギー危機により、短期的には厳しい環境に直面しており、特にフィリピン、タイ、ベトナムなどのエネルギー純輸入国は、インフレや生活費の高騰など重い負担が見込まれることから、成長の勢いが鈍化しています。一方、マレーシアはコモディティ輸出国であることが緩衝材となるほか、シンガポールも財政余地を有しているため、比較的有利な立場にあると考えられます。先行きがより明確になるまでは、原油価格の推移が市場心理を左右し続けるとみられます。その一方で、世界的なAI(人工知能)主導の設備投資サイクル、外国直接投資、およびインフラ投資が、一部のアセアン諸国の経済成長を支えています。こうした中、これまでアセアン地域全体としては世界的な株価変動が激しい中でも相対的な回復力を示してきました。同地域は堅調な外国直接投資、サプライチェーンの多様化、AI主導の技術投資の恩恵などが期待されます。また、潜在的な米ドル安が緩衝材となる可能性もあります。成長をけん引する良好な人口動態、中間層の増加、消費の拡大などアセアンの構造的な強みに変更はないと考えます。金融とデジタルの普及は消費行動に変化をもたらし、経済が回復した際に恩恵を享受するとみられる従来の伝統的な業種だけではなく、新興産業銘柄にとっても投資機会を提供しているとみています。当ファンドでは、シンガポールは金融管理局が推進している「EQDP(株式市場開発プログラム)」やエネルギーショックに対する相対的な耐性を強みに、引き続き有望視しています。タイは構造的な低成長、政治的な不確実性、インフレ圧力が継続しているため、引き続き銘柄を厳選しています。ベトナムについては、マクロ環境が引き続き良好なため、MSCIの指数対象国ではありませんが積極的に組入れています。一方、マレーシアはボトムアップによる投資機会の拡大と、石油純輸出国としてのディフェンシブな特性を鑑みてアンダーウェイト幅を大きく縮小しました。インドネシアは成長への懸念、政策の方向性、および政治的不安定さからアンダーウェイトとしています。当ファンドは高い成長が見込まれ、長期に優位性が高いと考えられる企業を引き続き選好します。

ファンドの目的

ファンドは、主としてアセアン諸国（東南アジア諸国連合）の株式等に投資するファンドと、本邦通貨表示の短期公社債等に投資するファンドに投資することにより、その実質的な運用はそれぞれの投資先ファンドが行い、中長期的な信託財産の成長を目指した運用を行います。

ファンドの特色

- ① 主として、アセアン諸国（東南アジア諸国連合）の株式等へ投資するルクセンブルク籍の「JPMorgan Funds - アセアン・エクイティ・ファンド(イクラス)」(米ドル建)と日本籍の「CAマネー・プールファンド(適格機関投資家専用)」(円建)に投資します。
- ② 「JPMorgan Funds - アセアン・エクイティ・ファンド(イクラス)」の組入比率を原則として、90%以上に保つこととします。
- ③ 原則として、為替ヘッジは行いません。ファンドの基準価額は、主に円対米ドル、米ドル対アセアン諸国の通貨の為替相場の動きにより変動します。
- ④ 「JPMorgan Funds - アセアン・エクイティ・ファンド(イクラス)」の運用は、アセアン市場の株式運用において豊富な運用経験を有するJPモルガン・アセット・マネジメント(シンガポール)リミテッドが行います。

◆資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。◆

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払い戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり方が小さかった場合も同様です。

投資リスク

ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として外国株式など値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクがあります)に実質的に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではありません**。ファンドの基準価額の下落により、**損失を被り投資元本を割込むことがあります**。ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、アセアン諸国の株式等への投資に関するリスク(カントリーリスク)、為替変動リスク等が挙げられます。なお、基準価額の変動要因(投資リスク)はこれらに限定されるものではありません。また、その他の留意点として、株価連動債券に関する留意点、流動性リスクに関する留意事項等があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

＜お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。＞

《当資料のお取り扱いについてのご注意》

当資料は、「アムンディ・リそなアセアン・ファンド」の商品内容説明資料としてアムンディ・ジャパン株式会社が作成した資料です。当資料に記載したコメントは、将来を保証するものではなく、資料作成時点における当社の見解や予想であり、将来の経済・市場環境、政治情勢等の変化により予告なく変更することがあります。当資料に記載したデータは資料作成時点のものであり将来の傾向、数値等を示唆するものではありません。購入のお申込みを行う場合には、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず商品内容、リスク等の詳細をご確認の上、ご自身のご判断でお申込みください。

《投資信託ご購入時の注意点》投資信託は、その商品の性格から次の特徴をご理解のうえご購入くださいますようお願い申し上げます。

- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象とはなりません。
- 投資信託は保険契約ではなく、保険契約者保護機構の保護の対象とはなりません。
- 銀行を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の設定・運用は委託会社が行います(銀行は販売の窓口となります)。
- 投資信託は値動きのある証券(外貨建資産には為替変動リスクがあります)に投資するため、運用実績は市場環境等によって変動します。したがって、投資元本および分配金が保証された商品ではありません。
- 投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うことになります。
- 投資信託のお申込みに関してはクーリングオフの適用はありません。

お申込みメモ

購入単位	1円または1口を最低単位として販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目から販売会社においてお支払いします。
購入・換金申込受付不可日	ルクセンブルクの銀行休業日あるいはシンガポールの祝休日のいずれかに該当する場合には、受け付けません。
申込締切時間	詳しくは販売会社にお問合せください。
換金制限	委託会社の判断により、一定の金額を超える換金申込には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金の申込受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金の申込受付を取消することができます。
信託期間	無期限とします。(設定日:2007年5月18日)
決算日	年2回決算、原則毎年3月15日および9月15日です。休業日の場合は翌営業日とします。
収益分配	年2回。毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。 収益分配金の「再投資」を選択した場合、税引後無手数料で再投資されます。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 ファンドは、NISAの対象ではありません。 配当控除および益金不算入制度は適用されません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が独自に定める料率を乗じて得た金額とします。有価証券届出書作成日現在の料率上限は 3.3%(税抜3.0%) です。詳しくは販売会社にお問合せください。
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	実質的な負担の上限:純資産総額に対して 上限年率2.065%(税込)* ※ファンドの信託約款に定める信託報酬(年率1.155%(税込))に組入投資信託証券のうち信託報酬が最大のもの(年率0.91%)を加算しております。ファンドの実際の投資信託証券の組入状況等によっては、実質的な信託報酬率は変動します。
その他の費用・ 手数料	その他の費用・手数料として下記の費用等が投資者の負担となり、ファンドから支払われます。 ・有価証券売買時の売買委託手数料および組入資産の保管費用などの諸費用 ・信託事務の処理等に要する諸費用(監査費用等を含みます。) ・信託財産に関する租税 等 ※その他、組入投資信託証券においては、ルクセンブルクの年次税(年率0.01%)などの諸費用がかかります。 ※その他の費用・手数料の合計額は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。

◆ファンドの費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

◆ファンドの費用については、有価証券届出書作成日現在の情報であり、今後変更される場合があります。

委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	アムンディ・ジャパン株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第350号 加入協会:一般社団法人資産運用業協会、日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
受託会社	株式会社 リそな銀行
販売会社	販売会社については巻末をご参照ください。
ファンドに関する 照会先	委託会社の名称:アムンディ・ジャパン株式会社 お客様サポートライン:050-4561-2500 受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで ホームページアドレス: https://www.amundi.co.jp/

販売会社一覧(業態別・五十音順)

金融商品取引業者等		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社 関西みらい銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○		○	
株式会社 埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○		○	
株式会社 リそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○	○	○	